

CONTENTS

HIV治療に関する要望書を厚生労働大臣に提出	1
拠点病院アンケート調査中間報告	2
ポジティブ・ボイス・プロジェクト	2
UNAIDS 新事務局長来日講演 & 写真展レポート	3
from friends of + 場所の持つ力	4
特定非営利活動法人の設立について	4
陽性告知のアンケートのお願い	4
これからの活動予定	4

HIV陽性者の治療の拡充に関する 要望書を厚生労働大臣に提出

薬害 HIV 訴訟を契機に、現在の医療体制が構築されましたが、
まだ改善すべき点は数多くあります。JaNP+ は HIV 陽性者がよりよい治療を受けられるべく、
要望書を厚生労働大臣に提出しました。

HIV 感染症が登場して 30 年、わが国においては薬害 HIV 訴訟の被害者と政府の和解によって、既存の拠点病院に加え HIV 感染症の診療、研究開発を推進するために ACC (エイズ治療・研究開発センター) とブロック拠点病院が指定され現在の医療体制の基礎が構築されました。その後これに加え各都道府県に中核拠点病院が指定され、日和見感染症や福祉の問題まで含めた HIV 感染症に総合的に対応する医療体制が強化されました。その完全な実現はいまだ道半ばですが、これにより全国で HIV 感染症の治療が可能な体制が描かれ、それは感染経路を問わずすべての HIV 陽性者に開かれています。

抗 HIV 治療は治療薬の進歩もあり最大 90 日に一度の受診で可能になっています。いっぽうで歯科、産科、外科、透析科、皮膚科など、短期間に何度も通院、受診する必要のある抗 HIV 治療以外の一般診療については生活圏において受診可能な環境を整える必要も生まれています。ところがここでは HIV 陽性者を受け入れる準備が整っておらず「専門的な知識がない」とか「特別に感染防止策を取るためにコストがかかる」という事を理由に HIV 陽性者の受診を実質的に拒否するケースが後を絶ちません。

また、現在の制度では、医療従事者の針刺し事故 (HIV 陽性者が使用した注射針などを誤って自分に刺して血液感染する事故) 後の抗 HIV 薬の予防投与費用が、労災で賄われず病院が負担しなければなりません。これもまた HIV 陽性者が受診できる環境を大いに制限しています。

そこで JaNP+ では平成 22 年 8 月 10 日、HIV 陽性者の一般診療の生活圏での受診を拡大するために、実質的診療拒否の理由を無くし、さらに医療者の中の HIV や HIV 陽性者に対する偏見をなくすための 3 項目の要望「HIV 陽性者の生活圏における治療の拡充に関するお願い」を厚生労働大臣あてに提出しました。この要望活動に関しては多くの個人団体のご賛同をいただきました。

その結果、針刺し事故の労災認定に関しては厚生労働省保健局疾病対策課と連携を取り、9 月 9 日付けで各地方自治体や医師会に向けて「労災保険における HIV 感染症の取り扱いについて」(基発 0909 第 1 号労働基準局長通達) を出し、労災認定が認められました。残りの 2 項目については今後も引き続き厚生労働省と話し合いを継続して改善していく予定です。



Illustration: 一歩一歩

HIV 陽性者の生活圏における治療の拡充を

平成 22 年 8 月 10 日、JaNP+ は厚生労働大臣・長妻昭氏に対し、「HIV 陽性者の生活圏における治療の拡充に関するお願い」と題する要望書を提出しました。

HIV 陽性者の生活圏における治療の拡充に関するお願い (抜粋)

日本 HIV 陽性者ネットワーク・ジャンププラスは HIV 陽性者の生活圏における治療の拡充を実現するために、次の三項の実現を要望します。

1. 医療従事者の感染予防のための針刺し事故等による医療者の PEP (HIV 暴露後感染成立予防薬処方) の労災認定

現状では針刺し事故等による HIV 暴露後感染成立予防の費用は労災認定対象となっておらず、その費用は主に病院負担となっています。また、適切に予防処置を行うためには速やかに処置する必要がある必要薬剤の備蓄体制を整えることが望ましく、HIV 陽性者の生活圏における地域診療を推進するうえで労災認定は喫緊の課題です。

2. HIV 感染症診療報酬加算制度が一般医療機関でも適用可能であることの周知徹底と歯科診療への適応

a. 現在、HIV 陽性者の受診について保険点数は特定疾患指導料、ウイルス疾患指導料 1 として 240 点の算定が認められています。しかしながら HIV 陽性者診療に伴うディスプレイ (使い捨て) 機材のコストを理由に挙げる医療機関が少なからず存在します。この理由は特定疾患指導料の保険適用が可能である事実と反します。この周知徹底を行い、HIV 陽性者受診拒否を無くして下さい。

b. 上記ウイルス疾患指導料は歯科診療には適用されず、HIV 陽性者の中でも最も広範なニーズのある生活圏における歯科診療の障害となっております。歯科診療についても同様の制度を設けるか、同法の適用拡大をお願いします。

3. 一般医療職を対象とした HIV/エイズ啓発活動の推進

拠点病院においては研修機会の提供などが進み、特定疾患治療管理料等の保険適用も認められているものの、他科の医療者、地域医療に携わる医療者の HIV/エイズへの偏見は根強く、実質的診療拒否増加の背景となっております。今後想定される HIV 感染症患者の増加と生活圏における受診拡充のために、広く一般医療者、病院経営者、医療機関就労者への HIV/エイズおよび HIV 陽性者に関する偏見削減のために急務である啓発活動を推進してください。

エイズ診療拠点病院アンケート調査 中間報告

JaNP+では全国の拠点病院に対するアンケートを実施しています。今年末までに結果を集計し公表する予定で進めています。9月30日現在での結果をまとめました。

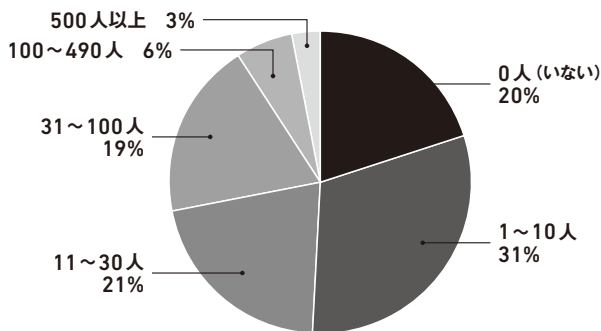
Questionnaire

前号でもお伝えした通り、JaNP+では全国約374の拠点病院に対するアンケートを実施し、HIV/AIDSの診療実績や他科における陽性者の受け入れ可否等について尋ねるアンケートを実施しております。

病院ごとの回答内容を公開させていただく前提の調査にも関わらず、2010年9月30日現在までに147の拠点病院より回答にご協力いただくことができました。本号では、HIV陽性者の生活圏における治療環境の参考として、現在までのアンケート結果を一部ご紹介いたします。

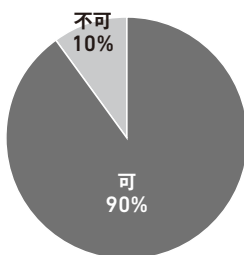
なお、10月には未回答の拠点病院に改めて送付しており、新たに30件以上の回答をいただいております。最終的な結果は、2010年末をめどにJaNP+のWEBサイトや報告書によって公開いたします。

2009年1年間におけるHIV患者の受診者数の分布

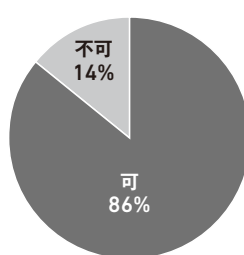


回答のあった拠点病院のうち半数は10人以下、7割が30人以下

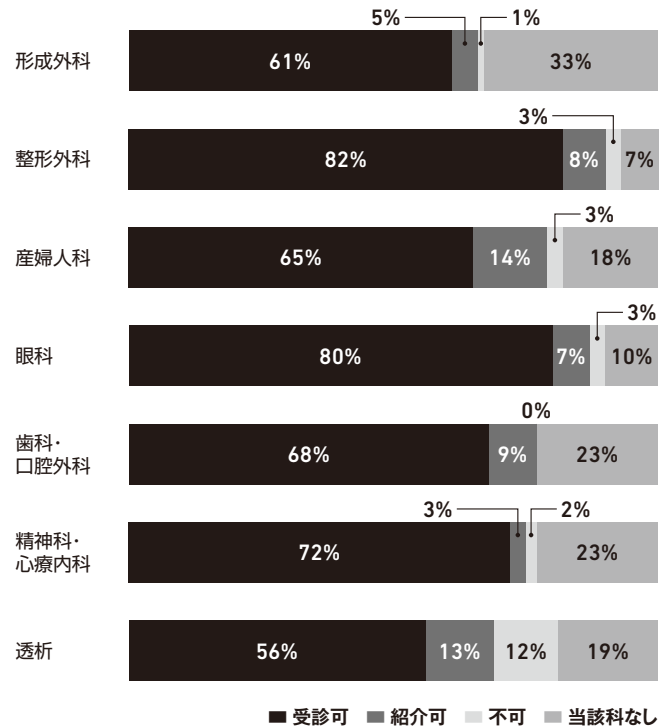
抗HIV薬の処方および服薬指導の可否



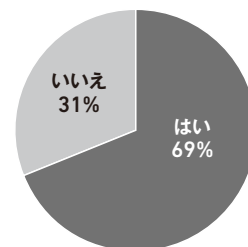
エイズ発症に対する治療の可否



拠点病院の各科におけるHIV陽性者の受け入れ可否



HIV診療科以外の医療従事者対象の、HIVに関する研修や教育等の実施の有無(過去3年以内)



※本プロジェクトは「2009年度ファイザープログラム～心とからだのヘルスケアに関する市民活動・市民研究支援」の助成を受けて実施しています。

ポジティブ・ボイス・プロジェクト ～行政機関に「HIV陽性者の声」を届けよう～

Voice

JaNP+では、国および行政に対する「HIV陽性者の立場から」の様々な意見を、HIV陽性者個人の皆様より広く募集しております。国および行政に向けて当事者として日頃より感じていらっしゃる意見がありましたら、JaNP+までお寄せください。ご提出いただいた意見の全てが行政機関等への提言や要望に必ず反映されることを保証するものではありません。しかし、皆様から頂いた声を届けられるよう最大限に努

めてまいりますので、より多くの皆様にご協力くださいますようお願い申し上げます。

意見の応募方法などプロジェクトの詳細につきましては、下記URLをご参照ください。

<http://www.janplus.jp/project/advocacy/>

UNAIDS 新事務局長ミシェル・シディベ氏 来日講演と写真展「命をつなぐ」

UNAIDS

先日、国際保健機構 (WHO) や国際連合児童基金 (UNICEF) などが協力している国連合同エイズ計画 (UNAIDS) に新しく就任されたミシェル・シディベ事務局長が来日しました。記念講演「UNAIDS 新事務局長と語るエイズの現状とビジョン」および写真展「Access to Life 命をつなぐ」が開催されました。また、akta では NPO のメンバーとも会合を持ちました。そのレポートをお届けします。

スマイル。

じゅんぺい

「Always keep smiling」

先日、マレーシアを訪問したとき、現地で視察のアテンドをしてくださった方が私に授けてくれた言葉。もちろん、愛想笑いを薦めているのではない。常に幸福を感じることができるよう 自分自身の生き方に豊かさを感じなさい、と諭してくれたのである。

スマイルは心の余裕がなければ生まれない。そんなあたりまえの事実に改めて気づかされたのは、9月5日から東京・有楽町の朝日スクエアギャラリーで開催された写真展「Access to Life 命をつなぐ」の開会セレモニーに参加したときだった。

私たちが“途上国”と呼んでいる国々に住む HIV 陽性者には、適切な治療が受けられず苦しんでいる人々がたくさんいる。彼らのごくあたりまえの日常を、世界的な写真家集団・マグナムフォトのカメラマンたちがとらえた。さまざまな作品に見入っているうち、私は息苦しさを感じた。笑っている表情の写真が全くといっていいほど、ない。そして、遙か彼方から対面で彼らを見つめている自分も 日々の生活の中からスマイルが消えかけている。その事実気がついたことが、自分にとってショックだったのだ。

「Access to Life」は、マグナムフォトと世界基金の共同企画として開催された。世界基金は、世界の三大感染症である結核、マラリア、エイズに苦しむ人々をサポートする目的で、各国の政府や民間の財団、企業などがスポンサーとなって資金提供を行う制度である。日本は途上国に対しさまざまな経済援助を行っているが、世界基金の場合、提供額に約束は求められない。世界経済が悪化する中、拠出金額も減り続けている。写真展の開催に合わせて来日した UNAIDS 事務局長、ミシェル・シディベ氏も、セレモニーで日本の協力を強く要請していた。

そのシディベ氏が、ゲイタウンである新宿2丁目を訪れ、コミュニティスペース・akta で HIV/AIDS 関連の NPO (AIDS&Society 研究会、アフリカ日本協議会、ぶれいす東京、RAINBOW RING、JaNP+) 関係者たちと懇親会を開いた。日本は経済的に恵まれた豊かな国、という固定観念を抱いている外国の方は多い。国民皆保険の制度があり、高度な医療が発達している、貧困のない国。HIV 陽性者やその支援者が現状に窮しているはずはない。そう思い込んでいるのは外国人だけでなく実は日本人にも多い。自分はその場所と無縁だと認識している限り、そこで起こる出来事は遠く離れた場所のアクシデントとしか写らないからだ。

だからこそ、長谷川代表が日本の HIV 陽性者が置かれている真実をシディベ氏に訴えたことのインパクトは大きい。そして、その言葉を真摯に聞き入っているシディベ氏を見ながら、私は“日本人であり、HIV 陽

性者でもある自分は豊かな存在なのだろうか?” と当惑せざるを得なかった。日本のコミュニティが直面している困難さが伝わり、シディベ氏は翌日の「命をつなぐ」の開会式での講演や、UNAIDS の HP に公開された訪問記で、日本のコミュニティの努力に関してコメントをしてくださった。

APN+ というアジア太平洋地域をカバーする HIV 陽性者団体の日本代表を務めているので、海外での会議に参加する機会をいただく。そうした場で「日本の HIV/AIDS 関連の NPO 法人は資金や人的なリソースが足りなくて困っているんだよ」という話をすると、「え？ 日本は世界基金にあれば貢献しているのに、国内問題には関心がないの？」と驚かれる。そのたびに返答に困るが、同時に、日本が海外で重ねてきた経済貢献の重みや、多くの日本人の努力の大きさを思い知らされる。

もちろん、お金が全てではないだろう。私のようなありふれた HIV 陽性者ができることには限りがあるが、少なくともネットワーク作りの役には立てるのではないかと思うし、それは誰もが気軽に始められるのではないかと思う。

私たちがごくあたりまえに感じている技術や知識をほしがっている人たちは、日本の国外にも、そして日本の国内にもたくさんいる。そうした人たちと手を結び、困ったときに遠慮なく助け合うことのできる関係を築くこと。日本の先輩たちが過去に経済支援を続けてきたように いま自分たちができることを始めて、続ける。それが未来を変えていくと信じている。

しかも、私たちには…日本人であろうと外国人であろうと、ポジティブであろうとネガティブであろうと、関係なく使える強力な共通語がある。せつかくだから、使わないテはない。

スマイル。



akta でのシディベ氏 (左端)。右よりぶれいす東京の生島嗣氏、RAINBOW RING の佐藤未光氏。(撮影:じゅんぺい)

a voice
from
friends
of +

Column

産経新聞編集委員 宮田一雄

場所の持つ力

国連合同エイズ計画 (UNAIDS) のミシェル・シディベ事務局長は9月2日午後、日本記者クラブで記者会見し、HIV/エイズ対策への日本の貢献を「素晴らしい」とほめちぎった。

確かに日本国内のHIV陽性率は、欧米先進諸国と比べても極めて低い。シディベ氏にはUNAIDSのトップとして、日本に一層の資金貢献を求める思惑もあるだろう。だが、そうしたことを割り引いても、会見での賞賛ぶりは、司会を担当した記者が「ひょっとして褒め殺し?」と当惑するほど徹底していた。

その記者会見と同じ日の夜、シディベ氏は新宿2丁目のaktaを訪れ、ジャンププラスやレインボーリング、ぶれいす東京、エイズ&ソサエティ研究会議など、東京に活動拠点を置くエイズ関連組織のメンバーと会合を持った。「外から見てうまくいっているように見えるほど、日本のエイズ政策はうまくいっているわけではない。社会の関心が低下する中で、少数の人たちがやっとの思いで必要と思われることを続けてきた。そのことは認識してほしい」

そうした現場の声は、シディベ氏にはやや意外だったの

か、途中から熱心にメモを取るようになった。日本のエイズ対策に関する認識に少なからず修正がはかられたようだ。

東京都写真美術館では10月2日から『ラヴズ・ボディ 生と性をめぐる表現』が開かれている(12月5日まで)。自らがHIVに感染したり、親しい人をエイズで失ったりした経験を持つ内外のアーティスト8人の作品展だ。出品作家のうち4人はすでにエイズで死亡している。残る4人の1人がaktaを拠点に活動する張由紀夫氏だったこともあって、海外から開会式に招かれたアーティストたちもaktaを訪れている。

コミュニティセンター aktaは《HIV/エイズをはじめとした性感染症の情報センターであると同時に、新宿二丁目に集う人々の「公民館」》として2004年夏にオープンした。ゲイコミュニティの施設という印象が強いが、基本的に《だれでも立ち寄れるオープンスペース》である。《場所があること》の貴重さ。やたらと暑かった今年の秋は、エイズ対策の観点からみると、それを認識する機会に恵まれた実りの季節でもあった。

特定非営利活動法人の設立について

NPO

JaNP+は平成22年7月27日付で東京都の認証を受け、同年8月5日を以て特定非営利活動法人(NPO法人)を正式に設立いたしました。これまで任意団体として行ってきた様々な活動を継承するとともに、今後はさらなる活動の発展を目指してまいります。今後とも、私どもの活動へのご理解とご支援を賜りますよう、何卒お願い申し上げます。

(代表理事 長谷川博史)

【設立法人の概要】

●名称

特定非営利活動法人日本HIV陽性者ネットワーク・ジャンププラス

●所在地 〒160-0014 東京都新宿区内藤町1-7 ホトクビル402

●理事

代表理事 長谷川博史 (JaNP+代表理事)

理事 樽井正義 (慶應義塾大学文学部人文社会学科 教授)

理事 佐藤未光 (Rainbow Ring 代表)

理事 藤原良次 (特定非営利活動法人りょうちゃんず 代表)

理事 池上千寿子 (特定非営利活動法人ぶれいす東京 代表)

●設立時の正会員数 11名

陽性告知についてアンケートのお願い

Survey

現在、HIV陽性者のみなさまを対象としたWEBアンケート「HIV陽性告知に関する調査」を実施中です。ご自身の陽性告知体験を、これから陽性告知を受ける人たちのために活かしてみませんか? 詳しくは<https://www.ptokyo.com/survey> 2010/をご確認ください。

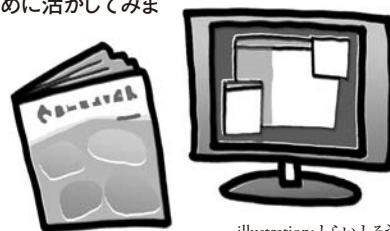


illustration: しらいしろう

活動報告 & 今後の予定 | Agenda

●9月19日(日)に東京、10月3日(日)に大阪、10月24日(日)に名古屋で「HIV陽性者のための治療に関する勉強会」を開催しました。全体でおおよそ70名が参加しました。

●10月31日(日) 女性のHIV陽性者による交流会をトライアル開催しました。今回の改善点を活かし、今後も継続的に開催できればと考えています。

●HIV陽性者による日本エイズ学会への参加を支援するスカラシッププログラム。第24回日本エイズ学会にこのスカラシップを通じて参加した当事者による報告会を、2011年2月5日(土)に開催予定です。

編集後記 from editors

●いま、新幹線の車内で原稿を書いています。他の仕事もしたいけど、ノートPCのモニタに「エイズ」や「セックス」なんて文字が大きく出ちゃうスライド作成なんかは、やっぱり気を使ってしまいます。(高久)

●なかなか3ヶ月に一回のペースでニュースレターをお届けするのは難しいです。それでも継続は力なり、で続けていきます。(神谷)

●記録的な暑さの夏が終わって、ようやく過ごしやすくなったと思ったら、今年の冬は寒いらしい。寒がりな自分は今から戦々恐々です。(加納)

JaNP+ News Letter | No.10

編集/高久陽介・神谷浩樹・長谷川博史
編集発行/特定非営利活動法人

日本HIV陽性者ネットワーク・ジャンププラス

〒160-0014 東京都新宿区内藤町1-7 ホトクビル402

[TEL] 03-5367-8558 [FAX] 03-5367-8559

[E-mail] info@janppplus.jp

[ホームページ] http://janppplus.jp/

イラスト/しらいしろう

デザイン/加納啓善 印刷/株式会社テンプリント